

第3回 夏の学校「日本と遊ぶ」

事業代表者 教育学部 教授 中島宗皓（望）

1. 事業の目的・意義

本事業は、「日本の伝統文化へのいざない」をテーマとした講演・実演等を柱に、宇都宮大学教育学部総合人間形成課程の実践力養成科目「プロジェクト研究」の学生はじめ、課程教員の協働による企画・実施を旨とする体験・実践学習教育活動として実施している。

2. 研究方法（又は事業内容）

(1) 夏の学校「日本と遊ぶ」の概要

本年度で第3回目を迎えた。今回は、「とちぎ子ども未来創造大学」への登録により、小学4年生から中学3年生を対象に、「躰 - 食育」をテーマに、お箸の扱い方（講演）、お箸作り（実習）を行った。

また、本年度は、「お箸の知育教室」を通して全国約10万人の子供達へ出前授業を行っている株式会社兵左衛門様より浦谷兵剛会長ならびに中道久次文化事業部長を講師にお招きした

(2) プロジェクト研究としての学生による運営

本事業は、教育学部総合人間形成課程の実践力養成科目の授業「プロジェクト研究」として、地域貢献を主目的とした文化事業のプログラムの企画、広報、TA等の実務および実践的学修を行った。



学生による TA

また、本年度は、本事業の趣旨となる日本の伝統文化への理解を深めるため、企業による出前授業とのタイアップにより、教育的かつイベント性の高いものとして企画・運営を行った。



講師による説明の様様（峰ヶ丘講堂）

3. 事業の進捗状況

本事業は、平成27年8月8日（土）に実施し、小中学生の参加者39名。その保護者と運営にあたった本学学生、教員を含め約70名が参加した。

4. 事業の成果

お箸を通じた日本の伝統的な「躰（しつけ）」、「食育」を地域の子供達へ伝えることができた。

近年は偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化している。また、食を通じて地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも課題とされている。

平成17年に成立した食育基本法は、こうした現状を踏まえ、翌平成18年には食育推進基本計画が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、

学校においても積極的に食育に取り組んでゆくことが重要とされているが、残念ながら「食の作法」については未だ言及されずに来ている。



小学生の作品

また、文部科学省では、栄養教諭制度の円滑な実施をはじめとした食に関する指導の充実に取り組み、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、地場産物の活用や米飯給食の充実を進めているが、日本の生活文化を学ぶ機会でもあるその場面において、箸の持ち方をはじめとした食のマナーについての指導が今も成されないまま置き去りにされている。

このような状況のなかで、今回は、「とちぎ子ども未来創造大学」への登録により、これまでになく事業の目的（意義）を達成することができた。

なお、授業として運営にあたった学生への指導には、教育学部総合人間形成課程の責任教員3名が当たり、実践力養成科目として大きな成果を上げることができた。

5. 今後の展望

事業代表者は、食育基本法の制定以前より、日本文化のなかでも生活文化に関わる研究を行い、箸の文化については、日中韓3国との共同研究・各種事業を实践・展開している。

現在、市販される箸のなかには、有害な物質を含む塗料（ラッカー）で塗装されているものが多く、それらを実際に白い紙に擦りつけると、箸か

ら塗り色の線が描かれてしまう。

もっとも、その検査結果は基準値以下ではあったが、体に有害な物質が微量に検出されている。事業代表者は、このような人体に有害な合成化学塗料を一切含まない漆（ヴァージン漆）を使用することを徹底するよう呼びかけている。

食の教育を推進する「食育」ではあるが、箸の持ち方など食のマナーや道具そのものについても、箸食のみならず、今後もさまざまな視点から食の周辺にある諸問題を教育現場に伝えて行きたいと考えている。

なお、夏の学校「日本と遊ぶ」では、「日本の伝統文化へのいざない」をテーマとした事業を展開しているが、これまでは古典芸能、日本舞踊などをテーマに行ってきた。そして今回は、生活文化としての「食育」をテーマとしたが、次回は本年度に続き、生活文化「染色とその文化」を予定している。染織における糸染めばかりか、衣類の「染め直し」に始まった染色文化をテーマに、日本の伝統的なエコ文化を扱う予定である。



中学生の作品

最後に、この度は平成27年度「地域連携・貢献活動支援事業」に採択していただき、深く感謝申し上げます。また、「とちぎ子ども未来創造大学」の関係各位ならびに本学教職員の皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。